



編集発行
 ☎912-0434
 大野市宝慶寺1-2
 宝慶寺奉賛会事務局
 振替00720-2-11671
 TEL 0779-65-8833
 FAX 0779-65-8103
 Eメール hokyoji@happytown.ocn.ne.jp



白山拝登 (ご来光)

平成二十八年丙申
謹賀新年
 西暦二〇一六年

宝慶寺専門僧堂 堂長 田中 真海
 他 役寮一同
 責任役員 寺坂 哲夫
 伊藤 武夫
 他 役員一同
 奉賛会会長 中村 利章
 他 役員一同

ただわが身をも心をもはなちわすれて、佛のいへになげいれて、佛のかたよりおこなはれて、これにしたがひもてゆくとき、ちからをいれず、ここをもつひやさすして、生死をはなれ佛となる。(「正法眼蔵」生死) 修行者は、道を得ても(坐禪修行によつて)得道する。得るところがあつても、その処に止らず、さらに修行すべきである。

奥越前・おおの・観音の里

宝慶寺専門僧堂
 堂長 田中 真海

新春を皆々様と共に迎え、出来ます事を心よりお慶び申し上げます。
 此処この奥越前・大野には、不思議な天地に人が生まれ育ち、足跡を後世(のちの世)の人々に残されておりませう。
 ▼天保十三年、大野市鞆掛の地



十一面小観世音菩薩 平成二十七年十月十二日開眼(高さ約一丈)



暴悪大笑面(十一面のうちの一面・後頭部) 一切の衆生を救う

に北野孫四郎の十人目の子として「十吉」が生まれた。この「十吉」とは、後の大本山永平寺六十七世元峰大寅禪師のことである。元峰は東京・松月院の魯衷和尚の下で修行をしていた。出家以来十二年、元峰が故郷に帰った時の母とのエピソードが知られている。ある時、元峰の母は病身であつたが寝床から起き上がり「お前が立派なお坊さんになれば、どこにいても生活ができるので大野に帰ってこんでもええ。病氣になつたり、やぐざ者になつたりした時は、生活してゆくことも難しいやろうで大野に帰つてこいよ。お前はここの家に生まれた者やで、田んぼや畑を売つてお前が生活できるよ、何とかしてやるでな。」と話したという。元峰は母の優しい心に触れて、思わず涙が溢れ出たという。元峰は「俺には悪い人にならぬように、いつも心配してくれているお母さんがいる。お母さんに心配をかけるこ

とだけは、絶対にしないぞ」と強く心に言い聞かせたそうだ。
 ▼昨年十一月二日の朝、前夜からの雨が降りしきる中、托鉢を決心した。不肖は三十年來のアメリカ人の法友と二人で一組になり、地元の上庄地区で一軒ずつ読経していた。すると「雨の中を御苦勞様です」と、多くの浄財を頂戴することがあつた。三十分の予定であつたが、二時間程勤めさせて戴いた。托鉢を終えた時、七十五才を過ぎた老僧二人は、思わず雨の中で「雨々ふれく／＼母さんが……ピチ／＼チャブ／＼ランラン……」と感動して両手を上げて踊つていた。この二人の姿は、托鉢して読経をした者と、浄財を供養した人々には一つのわだかまりもなく、喜びが共有できたことの頭れであるのかもしれない。
 ▼宝慶寺には寂圓観音さまが安置されている。また、昨年十月十二日に十一面小観音さまの開眼供養をさせていただき、お祀りさせていただくことになった。一切のものに感動することのできる心、慈悲深き観音さまの御心がこの奥越前の大野の地に根付き、これからも人々の心の拠所(観音の里)となつていくことであらう。

合掌

護持会会長 寺坂 哲夫



謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年(昨年)は地元(地元)の念願(念願)でありました、県道松ヶ谷宝慶寺大野線(松ヶ谷宝慶寺大野線)工事の進捗(進捗)も順調(順調)であり、当初(当初)計画(計画)の平成(平成)二十八年度(二十八年度)には完成(完成)予定(予定)となっております。これも奥越(奥越)土木(土木)事務所(事務所)、大野市(大野市)担当(担当)部局(部局)等、関係(関係)官庁(官庁)の積極(積極)的なご尽力(ご尽力)のお蔭(お蔭)であり、深く感謝(感謝)申し上げます。私共(私共)は、本県(本県)道の開通(開通)が宝慶寺(宝慶寺)及び周辺(周辺)地区(地区)の参拝(参拝)・観光(観光)者(者)の方々(方々)の利便(利便)性(性)向上(向上)に大

年頭所感



奉賛会会長 中村 利章



明けましておめでとうございます。皆様(皆様)、新年(新年)何(何)をお祈り(お祈り)されましたか。国内(国内)では自然(自然)の災害(災害)、家庭(家庭)内(内)殺人(殺人)事件(事件)、金儲(金儲)け(け)には虚偽(虚偽)がまかり通(まかり通)り、世界(世界)では同時(同時)多発(多発)テロ(テロ)、悲惨(悲惨)でなげかわしいニユース(ニユース)が気(気)になります。平穩(平穩)でありませ(ませ)ず事に手(手)を合わせられた事(事)と存(存)じます。救(救)われました事は日本(日本)人(人)二

きく寄与(寄与)し、更に日本(日本)曹洞宗(曹洞宗)第二道場(第二道場) 宝慶寺(宝慶寺)を護持(護持)していく上(上)で大変(大変)価値(価値)の高いものであると考(考)えています。また更に、境内(境内)の国重要文化財(国重要文化財)である橋本家(橋本家)に隣接(隣接)した小公園(小公園)の整備(整備)・植樹(植樹)と来訪者(来訪者)の方々の駐車場(駐車場)が、岡田(岡田)大野市長(大野市長)の大変(大変)なご尽力(ご尽力)により完成(完成)する運び(運び)となりました。今後は、田中(田中)老師(老師)と協力(協力)して皆様(皆様)方に親(親)しまれるお寺(お寺)になるよう努力(努力)して参(参)りますので、宜(宜)しくお願い(お願い)申し上げます。本年(本年)も皆々(皆々)様の御健勝(御健勝)、御多幸(御多幸)を祈念(祈念)申し上げます。私の新年(新年)の御挨拶(御挨拶)と致します。平成(平成)二十八(二十八)年 元旦(元旦)

人のノーベル賞受賞(ノーベル賞受賞)、国産初(国産初)のジェット旅客機「MRJ」の誕生(誕生)、日本の主力(主力)ロケット「H2A」の打上(打上)げ成功(成功)、悲願(悲願)でありました世界(世界)に向けて空(空)のビジネス(ビジネス)による(による)やく参入(参入)等(等)明るいニユース(ニユース)、又(又)私共(私共)奥越前(奥越前)大野(大野)には「天空(天空)の城(城)越前(越前)大野(大野)城(城)」が全国(全国)区(区)でのニユース(ニユース)として注(注)目を浴(浴)び観光(観光)のお客(お客)様(様)で潤(潤)ってき(き)ており(おり)ます。迎(迎)えます年(年)どうか明(明)るいニユース(ニユース)が続(続)きます事(事)、願(願)っております。新しい年(年)：「宝慶寺(宝慶寺)さまに合掌(合掌)」

御遺誠宣読式

昨年(昨年)九月(九月)二十八日(二十八日)(月)(月)、大本山(大本山)永平寺(永平寺)において当山(当山)堂長(堂長)老師(老師)が、御遺誠宣読式(御遺誠宣読式)の専使(専使)を勤(勤)められました。

高祖(高祖)道元(道元)禪師(禪師)様(様)は晩年(晩年)に、積尊(積尊)最後の説法(説法)である「八大人覺(八大人覺)」をま(ま)とめ(め)られ(られ)ました。この中(中)には、少欲(少欲)、知足(知足)、樂寂靜(樂寂靜)、勤精進(勤精進)、不妄念(不妄念)、修禪定(修禪定)、修智慧(修智慧)、不戲論(不戲論)とい(い)う八種(八種)類(類)の法門(法門)(八念(八念))のこ(こ)と、つ(つ)まり(まり)、お(お)釈迦(釈迦)様(様)の本(本)当(当)の仏法(仏法)のこ(こ)とが示(示)されて(て)いま(いま)す。私(私)た(た)ち(ち)は頭(頭)脳(脳)で考(考)えて(て)しま(しま)う(う)ので、な(な)か(か)な(な)か(か)解(解)ら(ら)ない(ない)こ(こ)と(と)で(で)す(す)が、先(先)ず(ず)は自(自)分(分)を大(大)獄(獄)人(人)、不(不)知(知)足(足)人(人)と思(思)い直(直)して大(大)人(人)と(と)は、と日(日)々(々)行(行)じ(じ)てい(い)くよ



三千礼拝行を終えて

昨年(昨年)十一月(十一月)二十一日(二十一日)(土)(土)と二(二)十三日(十三日)(月)(月)、山内(山内)と一(一)般(般)参加者(参加者)二(二)名(名)で厳(厳)か(か)に行(行)われ(れ)ました。



りほかに仕方がないようです。皆様(皆様)は如何(如何)でしょうか。侍者(侍者) 英徳(英徳)

過(過)現(現)未(未)の三千佛(三千佛)一名佛(一名佛)ずつ名(名)を称(称)えて、右(右)膝(膝)、左(左)膝(膝)、右(右)手(手)、左(左)手(手)、お(お)で(で)こ、と五(五)体(体)投(投)地(地)の礼(礼)拝(拝)によ(よ)って罪障(罪障)を懺悔(懺悔)する行(行)持(持)です。百(百)を過(過)ぎ(ぎ)る頃(頃)から膝(膝)が痛(痛)くな(な)り、手(手)を足(足)代(代)わり(わり)にし(し)な(な)ら(ら)な(な)い(い)ほ(ほ)ど、立(立)ち(ち)にく(く)くな(な)っ(っ)てき(き)ました。疲(疲)れて何(何)回(回)礼(礼)拝(拝)した(した)か分(分)からな(な)く(く)な(な)り、「休(休)息(息)」の合(合)図(図)でぐ(ぐ)っ(っ)たり、残(残)り(り)四(四)百(百)五十(五十)。ま(ま)だ(だ)く(く)と思(思)い(い)な(な)が(が)ら(ら)も、何(何)と無(無)気(気)持(持)ち(ち)が安(安)ら(ら)い(い)で(で)き(き)た(た)様(様)に感(感)じ(じ)た(た)と(と)き、「終(終)わ(わ)り(り)ま(ま)した(した)」の聲(こゑ)が聞(き)こ(こ)え(え)て(て)き(き)ま(ま)した(した)。この時(とき)に、もう一度(いちど)し(し)たい(たい)と頭(あたま)をよ(よ)ぎ(ぎ)り(り)……、沢(沢)山(山)の罪障(罪障)を懺悔(懺悔)し(し)な(な)ければなら(なら)ない(ない)の(の)か(か)も解(か)り(り)ませ(ませ)ん。

薦 福林

政府(政府)は安(安)保(保)で国(国)を護(護)るとい(い)う。納僧(納僧)は栗(栗)を本(本)身に身(身)を護(護)るとい(い)い、と先(先)人(人)は言(い)う。

栗(栗)は鎧(鎧)を着(着)けた武(武)士(士)のよ(よ)うに、イガ(イガ)を纏(纏)って身(身)を護(護)る。イガ(イガ)が破(破)れても固(固)い皮(皮)がある。お尻(お尻)はさら(さら)に強(強)固(固)だし、頭(頭)には槍(槍)が有(有)る。な(な)ん(ん)とか皮(かわ)を剥(剥)いてもま(ま)だ渋(しぶ)皮(かわ)が取(と)り(り)てい(い)る。このよ(よ)うに身(み)を固(か)めて、誘惑(誘惑)とい(い)う敵(てき)から身(み)を護(まも)るのも修(しゆ)行(ぎやう)だ(だ)ら(ら)う。遺教経(遺教経)に「た(た)と(と)え(え)ば鎧(よろい)を着(き)て陣(じん)に入(い)れば怖(おそ)れる所(ところ)な(な)き(き)が如(ごと)し。これ(これ)を不(ふ)忘(わす)念(ねん)と名(な)づく」とある。

栗(栗)は身(み)を護(まも)るこ(こ)とに長(なが)けてい(い)るだけ(だけ)ではな(な)い。時(とき)期(期)が至(いた)れば自(まづ)ら地上(ちじやう)に落(お)下(くだ)し、イガ(イガ)を破(やぶ)って飛(と)び出(で)し、身(み)を投(な)げ出(で)して食(た)料(りやう)とな(な)り衆(しゆ)生(じやう)に奉(ほう)仕(し)する。ま(ま)さに化(け)他(た)に赴(ま)き入(い)廓(くわく)垂(す)手(て)する菩(ぼ)薩(ざつ)行(ぎやう)だ。栗(栗)菩(ぼ)薩(ざつ)だ。もし柿(かき)のよ(よ)うに枝(えだ)にし(し)がみ(み)つ(つ)いた(た)ま(ま)な(な)ら(ら)、あ(あ)る(る)い(い)はイガ(イガ)を纏(纏)ったま(ま)な(な)ら(ら)地(ち)上(じやう)の猿(さる)や猪(ぶた)が栗(栗)を食(た)べ(べ)られ(られ)ない。我(われ)々(われ)は何(なん)げ(げ)なく、栗(栗)が裸(はだか)にな(な)って落(お)ち(ち)てい(い)るの(の)を見(み)てい(い)るが、あ(あ)れ(れ)は栗(栗)菩(ぼ)薩(ざつ)の捨(すて)身(み)行(ぎやう)に違(ちが)い(い)ない。M・T

十一面小観世音菩薩開眼式が 終わって

十一面小観世音菩薩が完成し、昨年十月十二日の開山忌に堂長老師より恭しく開眼式が執り行われ、私も家内と共に参加させて頂きました。

ところで、井上靖先生の「星と祭り」という小説がありま
す。この小説には先生の観音
さまへの思いが強く込められ
ており、一気に読み終えまし
た。筋書きは互いに未知であ
った二人の男親が各々高校生
の娘と息子を琵琶湖でボート
事故により喪うという悲しい
体験を契機に、湖北に所在す
る数多くの観音さまを訪ねる
という内容でした。

一方、父親が滋賀県高月の
渡岸寺を訪れ、十一面観音さ
まに直面したとき、自分の「思
い」を率直に語る部分があり
ます。「いいお顔、いいお姿で
ございます。それもその筈、
十一面観音さまは、頭上に戴
いた仏さまたちとご一緒にそ
れぞれ手分けして、衆生の悩
みや苦しみをお救いにならう
とされているお姿でございます。
十一の観音さまのお力を一身
に具現しているお姿でござい
ます——観音さまはご承知の
ように如来さまにおなりにな
ろうとして、まだおなりにな



法話前のごときま (昨年・開山忌)

新役寮紹介



特任講師
ブライアン・
ヴィクトリア良潤

ここで表現されている観音
さまこそ、今回開眼された十
一面観音さまの真のお姿に違
いなく感じた次第であり、
今後末永く、我々衆生をお救
い頂けますようご祈念申し上
げます。
合掌

宝慶寺の末寺をめぐる②

徳厳寺は十七世紀、横町(旧地名)現在地と同じで創建された。この寺が創建されるまでの経緯については、次の通りである。

正保元年、慶隆和尚は、勝山藩から大野藩に転封した松平直良の懇請により、曹源寺の住持として迎えられた。

この頃、豊臣家重臣の片桐氏に仕えていた小島清左衛門清資(丹桂・清雲居士)が大野の地で、蟄居していたとされる。

月桂山徳厳寺 (大野市明倫町九十四)

「小島家過去帳(徳厳寺文書)によると小島氏は当初、最勝寺の檀那であったが、清資が改宗したと

いう。

明暦年間(二説には寛永十五年)、清資は先祖の菩提を祀るため、慶隆和尚を請して一寺を設けた。これが、徳厳寺の起源である。(講師補)

宝慶寺世代との関係
(カッコ内の数字は宝慶寺の世代数)
開山徳厳桂隆(24)・二世寂心雲波(28)



徳厳寺山門



一道路問題のその後一

現福井県知事は人々の話を聞く為に、各市の有識者を二十名程集めて「座ぶとん集会」を開いている。平成二十年頃に大野市でこの会が行われた時、大野市の一人の商店主が如浄禅師の五ヶ条の垂示(フ

リント)を奉った。これを読んだ知事は「ひよっとしたら納はクールジャパン・クールフクイと言っていたが、それは間違えていたのではないかと皆の前で話した。

宝慶寺の道路問題と宗教的環境のことで、奥越土木所長と住職との間で仲たがいをしていた時期もあった。しかし、平成二十五年七月頃、この問題は解決の見通しが立った。実に四十年來のことである。一人の僧が永平寺を去って、

銀盤峰の麓に打坐(坐禅)されてから、七百五十年程の歳月が流れている。大野市の商店主の行動が、天地を動かすことになった。
——本年中には、道路が完成する予定です。(堂長)

長期参禅研修



ランドベ・スニータ
(スリランカ)

私は十歳で僧侶となつたスリランカ人です。昨年十二月十日、大野の宝慶寺という、とても静かで歴史のある素晴らしいお寺に参りました。禅の教えを学びつつ、ここで禅修行をすることが目的です。

山内の皆様には、時には厳しく坐禅の指導をしていただきませんが、とても温かい心で親切に教えていただいています。どうか、これから宜しくお願

いします。
※現在は、島根県龍雲寺に滞在中です。

山内日鑑より



富田・阪谷小学校(10月3日)

- 〔十月〕
 - 三日 富田・阪谷小学校様 (四十二名) 団参
 - 四日 日曜参禅会 富田小学校様(四十五名) ヨーガチャクラ様(六名) ブライアン・ヒクトリア・良潤先生役寮(特任講師) 就任式
 - 八日 開山忌配役行茶
 - 十日 開山忌(〜十二日)
 - 十一日 開山忌(〜十二日)
 - 二十三日 人権学習会 (〜二十四日・大乗寺にて)
 - 三十日 大野市教育員会様 (十五名) 団参
- 〔十一月〕
 - 一日 日曜参禅会
 - 五日 福井鉄道株式会社様 (三十二名) 団参
 - 八日 雪囲い大作務
 - 九日 愛知県第一宗務所管内 梅花流師範会様(二十名) 団参
 - 十七日 堂長会議(〜十九日)
 - 二十日 三千礼拝行(〜二十三日)
 - 二十三日(午後) 首座法戦式
- 〔十二月〕
 - 一日 臘八摂心(〜八日)
 - 八日 釈尊成道会

参拝者の声

- ・勝山市より自転車でまいりました。仏縁は、本当にありがたき事だと感謝申し上げます。(勝山市・男性)
- ・司馬遼太郎「街道を行く」に導かれて参拝させていただきました。ありがとうございました。(岡山市・夫妻)
- ・この禅堂にて、地球全体が無漏の大禅定に入らんことを願う(住所不詳)
- ・静岡県下の元社会科教員グループ七名で参拝いたしました。『正法眼蔵随聞記』を読み、ぜひ拝観したいと思いました。



銀盃峯初冠雪 11月27日

主な山内予定行持

- 〔二月〕
 - 十日 寒行托鉢(〜十四日)
 - 十八日 把針会摂心(〜二十四日)
- 〔三月〕
 - 一日 涅槃会摂心(〜七日)
 - 十五日 涅槃会
- 〔四月〕
 - 八日 釈尊降誕会

お寺に来る犬その13



◆母(シロ)が最後に残したものの一昨年未の木枯しと共に消えていったのだから「シロ」のことは、既に前号で述べた。ところ、一昨年の十月十一日、十二日の開山忌には、一スナップとして裏舞台で大事な役を果たしたのはまちがいなく、私達の記憶に残っている。そのあと、雪が訪れる十一月末には姿がなかったのだから、私達が目にしたのは十月下旬から十一月の中旬にかけてだろうと思われる。そういえば、彼女には精気がなくなっていた。また、早朝六時からの朝課諷経のときには、いつも法堂前で正座して、じつとそれが終わるのを待っていたのだが、その頃は見えなくなっていた。日中はいつも前足を伸ばして座っていることが多くなった。今、思い起こせば、肉体的に限界に達していたに違いない。

母が居なくなっても、そこには母のおもかけとにおいはしつかり残されているのだから。山の子ども達には母は居ないが、その後、母の居た所へ餌を求めにやってくることも多くなった。最後の最後まで母親として「生きる姿」を子ども達に教えていたのだ。シロ！ご苦労様でした！ありがとうございます！(感涙……)

これからは、シロの代わりに子ども達をしつかり守っていかねばならないと、私達は強く心に誓ったのである。(S・I)

かかった。そして今思うに、日中けたるい体(てい)をさらしながらじつと座っていた定位置があったことだ。そこは餌場である小屋の前である。声をかけても近づいても、ひたすらそこにじつと座っていたものだ。そのことを今、考えるに、たぶん山に居る二匹の子ども達に「人間との共生」を身をもって示していたような気がするのである。

…日曜参禅会のお知らせ…

宝慶寺専門僧堂では、一般の方を対象とした日曜参禅会を毎月、第一日曜日朝10時から行っています。冬季のため、次回は4月3日(日曜)に開催されます。年齢・性別・坐禅経験の有無は問いません。初心者の方に対しても懇切丁寧に指導をいたしますので、興味のある方は是非、ご参加下さい。ご不明な点は、宝慶寺までお尋ね下さい。

…安居者募集のお知らせ…

永平寺につぐ曹洞第二の道場・宝慶寺専門僧堂では、坐禅と辦道法を中心にした修行を行っています。安居は随時、受付けております。ご不明な点は、宝慶寺までお尋ね下さい。

〒912-0434 福井県大野市宝慶寺1-2
電話 0779(65)8833 FAX 0779(65)8103



昨年十二月四日未明に雪が降りはじめました。雪が積もることで一層、お寺は静寂な空間に包まれております。新年のお参りの際には、どうかお足下に気を付けてお越し下さい。(秀)